



Color & Comfort by Chemistry

株主のみなさまへ

第116期 報告書 (中間) 平成25年4月1日～平成25年9月30日



DIC 株式会社



Color & Comfort by Chemistry

化学で彩りと快適を提案する

Contents

株主のみなさまへ	3
連結業績	4
中期経営計画「DIC105」特集	7
会社概要・株主メモ	10
DIC川村記念美術館のご案内	11

株主のみなさまへ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。新たに株主となられた皆様には、心よりお礼申し上げますとともに、末永くご支援の程お願い申し上げます。

この4月よりスタートした中期経営計画「DIC105」では、「STEP BEYOND」—時代を見据え、果敢に踏み出す—をスローガンに、最終年度にあたる2015年度には過去最高益となる営業利益600億円の達成を目指しております。現在この目標を達成すべく、将来を見据えた「事業ドメイン」へ経営資源を集中し、重点戦略の遂行に総力を挙げて取り組んでおります。

さて、当社第116期における平成25年9月30日までの営業が終了いたしましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

連結業績のご報告

当社グループを取り巻く事業環境については、中国やインドを中心とする新興国の成長鈍化が顕在化するなど下振れ要因を抱えながらも、国内での円安による輸出環境の改善に加え、欧州の債務危機による景気低迷も下げ止まりつつあるなど、国内外における緩やかな景気回復の兆しが見られる中、自動車産業の需要が好調に推移した一方で、電気・電子産業の需要回復は依然弱い状況で推移しました。

このような事業環境の中、当連結累計期間の売上高は、3,850億円と前年同期比10.0%の増収となりました。

営業利益は合理化効果、販売価格の是正、円安の影響などにより228億円と前年同期比22.3%の増益となりました。

経常利益は、207億円と前年同期比 24.9%の増益となりました。

四半期純利益は、107億円と前年同期比 6.6%の減益となりました。



通期の連結業績見通しと配当金

事業環境については、上半期に引き続き、成熟国を中心に世界経済の緩やかな回復の兆しが見られるものの、新興国を中心に先行き不透明な状況が見込まれます。このような状況下、当社グループは中期経営計画「DIC105」に基づき、欧米インキ事業の再構築、成長牽引事業の拡大をはじめとする重点戦略の徹底を図るとともに、当社の総合力を最大限に活かした事業運営に取り組んでおります。これにより2013年通期では、売上高7,100億円、営業利益390億円、経常利益350億円、当期純利益244億円を見込んでおります。

また、当期の配当については、1株当たり3円の間配当を実施し、期末配当としても1株当たり3円を予定しております。

当社は、安定した経営基盤の確立を目指すとともに、株主の皆様への利益還元をより充実させていくことを基本方針と考えています。また内部留保資金については、その充実に努めるとともに、企業体質を一層強化することで株主の皆様の将来的な利益拡大に寄与すべく、より有効に使用して参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員

中西義之

事業セグメント別業績の概況



プリンティングインキ

日本では、グラビアインキの需要が堅調に推移しましたが、オフセットインキ及び新聞インキは、従前からの需要減少傾向等により、全体として減収となりました。北米・欧州においても、パッケージ用インキが堅調に推移しましたが、雑誌や新聞の発行部数減少などにより、出版インキと新聞インキが落ち込んだため、減収となりました。アジアでは、中国において、グラビアインキが好調に推移しましたが、景気減速の影響などによりオフセットインキおよび新聞インキが落ち込み、減収となり、東南アジアにおいても、新聞インキ、グラビアインキ、オフセットインキともに低調に推移したことなどから、減収となりました。インドでは、主に新聞インキ、グラビアインキが苦戦を強いられ、減収となりました。以上の結果、全体として現地通貨ベースでは減収となりましたが、円安の影響により、増収となりました。

営業利益は減収の影響はあったものの、継続的な合理化、品目構成の改善などによる効果により増益となりました。



ファインケミカル

有機顔料は、国内ではインキ用やカラーフィルター用が、欧米では塗料・プラスチック用、インキ用が、各々好調に推移し、国内外で増収となりました。TFT液晶は、液晶テレビ向け出荷が好調に推移し、増収となりました。以上の結果、全体としては増収となりました。

営業利益は、上記の売上状況などにより、大幅な増益となりました。



ポリマ

国内では、塗料用樹脂が、主に土木・建築向けに好調に推移し、増収となりました。エポキシ樹脂は電気・電子向けの需要が伸び悩んだことから前年同期並となりました。ポリスチレンは拡販などにより、増収となりました。海外では、主に中国および東南アジア子会社の健闘などにより、増収となりました。以上の結果、全体としては増収となりました。

営業利益は、品目構成の悪化などにより、減益となりました。



アプリケーションマテリアルズ

機能性光学材料は、電気・電子向けの需要減少の影響を受けて落ち込みましたが、PPSコンパウンドは、自動車関連用途が好調に推移したこと、工業用粘着テープはスマートフォン向けに出荷が拡大したこと、また、インクジェットインキはシェアが拡大したことなどから、各々増収となりました。以上の結果、全体としては増収となりました。

営業利益は、品目構成の改善などにより、増益となりました。

連結グループネットワーク

プリンティングインキ 106社

DICグラフィックス株式会社
Sun Chemical Group Coöperatief U.A.
DIC India Ltd.
DIC Australia Pty Ltd.
DIC Graphics(Thailand)Co.,Ltd.
南通迪愛生色料有限公司
DIC (Malaysia) Sdn. Bhd.
他99社

ファインケミカル 7社

連雲港迪愛生色料有限公司
他6社

ポリマ 24社

星光PMC株式会社
DIC北日本ポリマ株式会社
Siam Chemical Industry Co., Ltd.
常州華日新材有限公司
迪愛生合成樹脂(中山)有限公司
DIC Performance Resins GmbH
張家港迪愛生化工有限公司
他17社

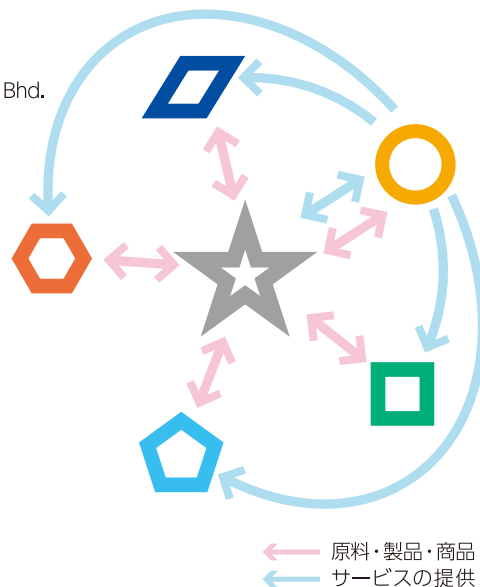
アプリケーションマテリアルズ 24社

DIC EP株式会社
DICプラスチック株式会社
DIC化工株式会社
株式会社不二レーベル
DICフィルテック株式会社
DIC Compounds (Malaysia) Sdn. Bhd.
他18社

その他 15社

DIC Asia Pacific Pte Ltd
迪愛生投資有限公司
他13社

★DIC株式会社



セグメント情報

売上高

(単位: 億円)

	前第2四半期 実績(累計)	当第2四半期 実績(累計)	前年同期比 (%)
プリンティングインキ	1,754	1,911	+8.9%
ファインケミカル	536	643	+20.0%
ポリマ	759	842	+10.9%
アプリケーションマテリアルズ	631	643	+1.8%
その他	16	13	△19.0%
全社・消去	△198	△202	—
連結合計	3,498	3,850	+10.0%

営業利益

(単位: 億円)

	前第2四半期 実績(累計)	当第2四半期 実績(累計)	前年同期比 (%)
プリンティングインキ	67	81	+19.9%
ファインケミカル	54	75	+39.9%
ポリマ	62	59	△5.1%
アプリケーションマテリアルズ	27	41	+51.9%
その他	△3	△7	—
全社・消去	△21	△21	—
連結合計	186	228	+22.3%

連結業績

連結財務諸表等

連結貸借対照表 (要約)

平成25年9月30日現在

		(単位:億円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金・預金	193	支払手形・買掛金	1,116
受取手形・売掛金	2,191	短期借入金 (含む長借1年以内・CP)	1,137
たな卸資産	1,416	その他の流動負債	717
その他の流動資産	185	流動負債 合計	2,969
流動資産 合計	3,986	長期借入金・社債	2,253
有形固定資産	2,265	その他の固定負債	455
無形固定資産	156	固定負債 合計	2,707
投資その他の資産	1,197	負債 合計	5,676
固定資産 合計	3,618	株主資本:	
		資本金	912
		資本剰余金	888
		利益剰余金	758
		自己株式	△9
		その他の包括利益累計額:	
		為替換算調整勘定	△563
		その他	△290
		少数株主持分	232
		純資産 合計	1,928
資産 合計	7,604	負債及び純資産合計	7,604

連結損益計算書

平成25年4月1日～平成25年9月30日まで

		(単位:億円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
売上高	3,850		
売上原価	3,037		
販売費及び一般管理費	585		
営業利益	228		
金融収支	△28		
持分法による投資利益	8		
為替差損益	2		
その他	△4		
経常利益	207		
特別利益	5		
特別損失	△43		
税金等調整前四半期純利益	169		
法人税等	△53		
少数株主利益	△10		
四半期純利益	107		

連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

平成25年4月1日～平成25年9月30日まで

		(単位:億円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△55		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△145		
フリーキャッシュ・フロー	△200		
財務活動によるキャッシュ・フロー	150		
現金及び現金等価物に係る換算差額	13		
現金及び現金等価物の増減額	△37		
現金及び現金等価物の期首残高	225		
現金及び現金等価物の期末残高	189		

中期経営計画「DIC105」特集 ①

スーパーエンプラ、 PPS増産100億円プロジェクト完了

PPS樹脂は、耐熱性や耐薬品性、寸法安定性に優れたスーパーエンプラとして、近年金属代替需要を中心として、自動車、電気、住設向けに大きく需要が伸びています。

当社グループはPPS樹脂からPPSコンパウンドまでを一貫生産しており、PPSコンパウンドでは、世界シェア25%を有するトップメーカーです。

中期経営計画「DIC105」では、総額100億円の新規設備投資による能力増強により、2015年度までにPPSコンパウンドの世界シェアを現状の25%から30%まで引き上げ、トップメーカーとしての地位を揺るぎないものにすることを計画しています。

今般、マレーシア、オーストリアのPPSコンパウンド製造プラントに続き、日本の鹿島工場において、PPS樹脂の新規製造プラントが稼動し、能力増強によるシェア拡大への準備が整いました。



鹿島工場PPS樹脂製造プラント(増設)



オーストリアPPSコンパウンド製造プラント(新設)



PPSコンパウンドプラントを増設した
DIC Compounds Malaysia

PPS増産計画

		完成	投資額
PPS樹脂	日本(鹿島工場)	2013年5月	約80億円
PPSコンパウンド	マレーシア(ペナン)	2011年10月	約5億円
	オーストリア(ウィーン)	2012年12月	約15億円
合計			約100億円

PPS樹脂については、従来の生産能力13,500トン/年から19,000トン強へ、PPSコンパウンドについては、従来の生産能力27,500トン/年から33,500トンへ増強。

中期経営計画「DIC105」特集②

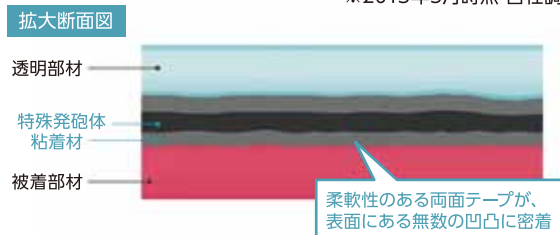
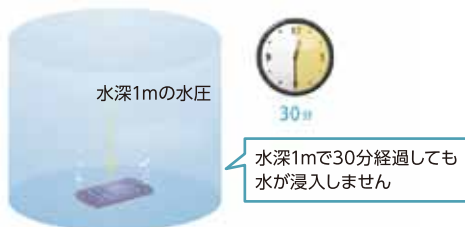
スマートフォン用「防水両面テープ」と「飛散防止フィルム」が急成長

防水両面テープ

DICは、携帯電話・スマートフォン用の防水両面テープでは国内約8割※というトップシェアを誇り、カタログで「防水」と表記されていれば、そのほとんどにDICの防水両面テープが使われているというほど、圧倒的なポジションを獲得しています。

この防水機能は、テープを構成する薄型特殊発泡体とその両面の粘着剤の最適な組み合わせにより実現しています。また、DICの防水両面テープは防水性能を保ちながら、落下などの衝撃にも耐える強い粘着力で部材を接着しており、耐衝撃性能にも優れています。

※2013年5月時点 自社調べ

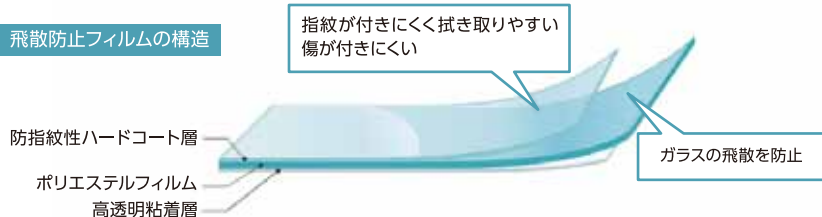


飛散防止フィルム

DICは、スマートフォンを落としたりぶついたりしてタッチパネルが割れてしまった際に、ガラスが飛び散ることを防ぐ「飛散防止フィルム」においても、防水両面テープと同様、国内約8割のトップシェアを獲得しています。

DICのフィルムは飛散防止機能に加え、キズの付きにくさ、指紋などの汚れのふき取りやすさ、タッチパネル操作時の指の滑り良さといった性能を有する多機能フィルムとなっています。

製品サイクルが短く、進化が早いスマートフォンで、市場のスピードに遅れることなく、厳しい要求に応えることができるのは、素材の特性を追求できる研究開発力を持ち、自ら設計・製造しているDICだからこそです。



中期経営計画「DIC105」特集 ③

中国山東省青島市のTFT液晶新工場が 2013年10月に稼働開始

当社の研究開発拠点のひとつである青島迪愛生精細化学（当社100%子会社）の敷地内に新設された工場は、DICにとって初の液晶海外生産工場となります。新工場は、液晶パネルメーカーの相次ぐ中国における生産ライン稼働に対応するもので、現地ユーザーへの良好なアクセスにより、よりいっそうのサービス向上が可能になります。さらに、隣接する液晶原料の製造を行う青島迪愛生液晶（当社100%子会社）とノウハウや人材の相互活用を進め、2015年度に世界シェア15%を目指します。（現状は8%程度）



青島に新設した液晶工場イメージ図

当社社長中西義之が『賢者の選択 Leaders』に出演

BS12・日経CNBC・サンテレビで放送中の『賢者の選択 Leaders』に、当社社長中西義之が出演しました。番組では、社長就任の経緯から、DICの組織運営、中期経営計画について語っています。

■映像は以下のサイトからご覧いただけます。

【映像はこちら】 <http://kenja.jp/database/>
『賢者の選択Leaders』公式サイト
<http://kenja.jp/>



会社概要・株主メモ

■会社概要

—平成25年9月30日現在—

商号	DIC株式会社 DIC Corporation
本店	〒174-8520 東京都板橋区坂下三丁目35番58号 電話 03 (3966) 2111
本店事務取扱所	〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-101 電話 03 (6733) 3000
創業	明治41年2月15日(1908年)
設立	昭和12年3月15日(1937年)
従業員数	3,495名 <他に出向者1,066名>
株式の状況	発行する株式の総数 1,500,000,000株 発行済株式の総数 919,372,048株 株主数 42,660名 1単元の株式の数 1,000株

■株主メモ

第115期定時株主総会において定款一部変更の件が承認され、事業年度が変更されました。

事業年度 1月1日～12月31日 (第116期は4月1日～12月31日までの9ヶ月)

定時株主総会 3月

期末配当金受領
株主確定日 12月31日

中間配当受領
株主確定日 6月30日 (第116期は9月30日)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
TEL 03-6701-5000 (通話料有料)

上場証券取引所 東京証券取引所

公告の方法 電子公告
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
URL <http://www.dic-global.com/>

株主優待制度 毎年12月31日現在の株主名簿記載の1,000株以上ご所有の株主に対し、
一律に当社DIC川村記念美術館の「株主ご優待招待券」2枚を贈呈

【ご注意】

- 住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記の特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

DIC川村記念美術館のご案内



DIC川村記念美術館は、当社が関連企業とともに収集してきた美術品を公開するため、佐倉市の総合研究所に隣接する敷地内に1990年に設立した美術館です。

17世紀のレンブラントから、印象派、エコール・ド・パリ、日本の屏風絵、そして20世紀後半のアメリカ美術まで多彩なコレクションを展示するとともに、収蔵品にちなんだ企画展を年に数回催しています。

これから見られる展覧会

当館の幅広い収蔵品を全館においてご紹介するシリーズ企画「コレクション・リコレクション」の第3弾では、2つの企画展を同時に開催いたします。

コレクション♡リコレクション VOL. 3

2014年1月2日(木) - 6月29日(日)

山口長男

やまぐちたけお

日本の近・現代絵画に偉大な業績を残した山口長男 [1902(明治35)-1983(昭和58)] の作品を当館のコレクションから展覧します。現在の韓国ソウル市(本籍は鹿児島県)に生まれた山口は、東京美術学校を卒業し渡仏、パリで佐伯祐三や荻須高德らと研鑽を積みます。戦後は、漆や土壁の質感を思わせる黒や茶、黄土色を独自の形態に塗り込めた作品を制作し内外から高い評価を得ました。時流に惑わされることなく一貫した歩みを示したその足跡は大人の風格を漂わせ、具体的なものをじっくりと観察し自然の実体に触れることから制作された作品は抽象的でありながら観る者の心に深いやすらぎをもたらします。本展示では、初期作品から代表作に至る油彩8点に加え、水彩や絵付け陶器によって山口長男の芸術を多角的にご紹介します。



山口長男 《影》1965年

コレクションは語る

本展は、コレクション作品と文字・言葉・テキストの関係に着目する企画です。第1部では、作品の色彩や形態から導き出されるイメージを文学作品の表現と比較します。第2部では、画面にアルファベットや数字の書き込まれた作品に注目し、それらが作品の中でどのように使われているのかを考えます。第3部はコレクション作品の特徴を拡大して捉え、「見立て」の手法を使いながら起承転結に沿って並べる構成です。第4部では、画家やモデルにまつわるエピソードなどを取り上げ、芸術家と周囲の人々の思考や人柄に触れながら作品を味わいます。「ことば」という鍵を手がかりとして多様な表現への扉を開き、コレクションの織りなす新しい物語をお楽しみください。



飯田善國 《HOPE-KIBO》1973年

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(ただし祝日は開館し、翌平日に休館) 年末年始(12月16日～1月1日) 展示替え/メンテナンスの臨時休館

所在地：千葉県佐倉市坂戸631

交通：・お車で→東関東自動車道「佐倉IC」から約5km、無料駐車場300台完備

・電車+送迎バスで→JR総武本線「佐倉」駅または京成本線「京成佐倉」駅より無料送迎バス(JR佐倉→約20分/京成佐倉駅→約30分)

・高速バスで→東京駅八重洲北口の3番バス乗り場から1日1往復運行、片道約60分

お問い合わせ：展覧会の詳細など、最新情報はホームページでお知らせしております。

URL <http://kawamura-museum.dic.co.jp>

代表電話 0120-498-130(通話料無料・自動音声案内)



<http://www.dic-global.com/>

Color & Comfort by Chemistry

当社の経営ビジョン「Color & Comfort by Chemistry」は、社会に対し、化学で彩りと快適を提案することを示しています。絶えざるイノベーションにより、顧客・社会・地球環境の持続可能な発展に貢献する、新たな価値の創造に全力を傾けてまいります。